

「思い」を知らせること

学校の放送委員会の特別企画で、今年の三月に、「笠松中学校アラカルト」と題する帯番組が、数回に渡って放映されました。

番組製作に携わった生徒や担当教員の意図は、次のようでした。

『五十九周年を迎えた笠松中学校のさまざまなことを、今の生徒たちに知らせて、自分たちの学校に誇りと愛着をもってもらいたい。また、卒業する三年生に、母校の歴史を提供し、よい思い出してもらいたい。』
放送内容の取材は、委員の生徒が手分けして行いました。

- ・歴代の卒業記念品探検
- ・笠中四本柱の誕生
- ・なぜ職員室は二階に？
- ・「学年」という呼び方はいつから？
- ・輝かしい部活動の成績
- ・校内 あんな所、こんな所
- ・古時計に込められた話

取材は精力的に行われ、過去の資料の他にも、転出された先学生、卒業生である家族にまで取材が及んだと聞いています。中には、一生懸命調べたにもかかわらず、よく分からなかったものもあつたようです。



昔の中庭



現在の中庭

給食時のテレビ放送で、この特別番組が流されると、教室の生徒の様子が普段とは違う姿になりました。いつもはおしゃべりに夢中な生徒たちもじっと食い入るように見入って、説明に耳を傾けていました。

長い歴史の中で育てられた、一つ一つのものに込められた先輩たちの深い思いを知らされ、生徒たちは新鮮さと重みの両方を感じ取ったことでしょう。しつとりとした、温かい雰囲気的时间になりました。

笠松中学校
校長 赤木重義

防火、防災の誓いも新たに

町消防団入団式

町消防団入団式が四月二十二日コミュニティ消防センターで団員および関係者約百二十人が出席し行われました。



新入団員は次の皆さんです。

(敬称略)

式では、広江町長から「町民の生命、財産を守るため、一日も早く立派な消防団員となることを期待しています」と式辞がありました。岩田団長からは、新入団員十七人と新役員へ辞令が交付され、日ごろの消防活動に対する労と「いざという時のために、訓練などに頑張ってください」との訓示がありました。

- 続いて、加藤県議会議員、太田町議会議長、山田町内会連合会会長から祝辞があり、団員は「防火、防災の誓い」を新たにしました。
- (第一分団)
山崎秀夫、野垣 靖、廣江一昭、野田利幸、廣江正昭、鈴木一生、奥村敬宗、淺野陽平
 - (第二分団)
柵橋 渡、入江大介、磯部達弘、後藤良一、水谷 豊、榊原祐輔
 - (第三分団)
田島直樹、岩井大輔、長谷部 佳哲

塩谷収入役が 退任

三月三十一日、塩谷武司収入役が退任されました。

同氏は町職員を三十七年、収入役として四年の長きにわたり、町の発展に尽くされたことに對し、自治功勞者として表彰が行われました。

